



Cisco UCS Central 管理パックのカスタマイズ

この章の内容は、次のとおりです。

- [Cisco UCS Central 管理パックのカスタマイズの概要, 1 ページ](#)
- [Cisco UCS Central インスタンス オブジェクト ディスカバリ, 2 ページ](#)
- [ルール, 3 ページ](#)
- [重大度のマッピング, 5 ページ](#)
- [管理パック内のルールの一覧表示, 5 ページ](#)
- [ルールのオーバーライド, 6 ページ](#)
- [Cisco UCS Central から別のモニタリング サービスへの移行, 6 ページ](#)

Cisco UCS Central 管理パックのカスタマイズの概要

Operations Manager でモニタリングのために追加される UCS Central のそれぞれに対して、Cisco Unified Computing System の [Management Pack Templates] タブに管理パック テンプレートが作成されます。カスタマイズを行うため、管理パックのコンポーネントを理解しておくことが重要です。

Cisco UCS Central インスタンス オブジェクト ディスカバリ

オブジェクト ディスカバリはすべて一定間隔で実行され、モニタリングサービスからディスカバリ データを取得するため定期的に実行できます。パック内のオブジェクト ディスカバリの一覧を表示するには、以下の手順に従います。

-
- ステップ 1 Operations Manager コンソールで、メニュー バーの [Go] タブをクリックします。
 - ステップ 2 ドロップダウンリストで、[Authoring] を選択します。
 - ステップ 3 [Management Pack Templates] > [Cisco UCS Central] を選択します。
 - ステップ 4 オブジェクト ディスカバリを表示するテンプレート パックを選択します。
 - ステップ 5 右クリックして [View Management Pack Objects] > [Object Discoveries] を選択します。
-

Cisco UCS Central Root (オブジェクト ディスカバリ)

これはトップ レベルのオブジェクト ディスカバリであり、UCS Central に最初に実行するディスカバリです。Cisco UCS Central のインスタンスを Operations Manager に検出します。このディスカバリは、Cisco UCS モニタリング サービスを使用して Cisco UCS Central からのインベントリとモニタリング情報を取得するために実行します。これらのディスカバリはオーバーライドできません。以降のセクションで、オブジェクト ディスカバリをオーバーライドする方法を説明します。

このオブジェクト ディスカバリで利用可能なオーバーライドのセットを以下に示します。

- **CacheClass** : UCS Central から収集されるインベントリとモニタリング情報の管理対象オブジェクトを定義します。
- **Discovery Level** : Operations Manager 内で UCS Central からの組織とサービス プロファイルを検出する最大レベルを定義します。
- **Enabled** : オブジェクト ディスカバリの有効化状態を定義します。
- **Interval Seconds** : 実行間隔を定義します。
- **ShowUnassociatedProfiles** : 関連付けられた、または関連付けられていないサービス プロファイルを Operations Manager 内で検出するかどうかを定義します。デフォルト値は True で、関連付けられていないサービス プロファイルが表示されます。
- **Logging Level** : このオブジェクト ディスカバリにロギングを有効化するか無効化するかを定義します。
- **Timeout Seconds** : ディスカバリ スクリプト実行のタイムアウト時間を定義します。



(注) デフォルトでは、Cisco UCS Central Root ディスカバリは2時間（7200秒）ごとに実行されるようプログラムされており、Cisco UCS Central からすべての変更を取得します。

オブジェクト ディスカバリのオーバーライド

ステップ1 Cisco UCS Central インスタンスの [Object Discovery] ページに移動します。

ステップ2 プロパティをオーバーライドするオブジェクトを選択します。

ステップ3 右クリックして、[Override] > [Override the Object Discovery] > [For All Objects of Class] を選択します。

ステップ4 [Override Properties] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- [Override] チェックボックスにマークを付けます。
- オーバーライド値を変更します。
- [OK] > [Apply] をクリックします。

(注) オーバーライドを使用してオブジェクトディスカバリが有効化された場合、トップレベル（Cisco UCS Central インスタンス）までのターゲットクラス ディスカバリも有効化されていることを確認します。有効でなかった場合、有効化します。オーバーライドを使用してオブジェクトディスカバリが無効化された場合、このクラスをターゲットとしたクラス ディスカバリすべても、リーフレベルまで、Operation Manager のモニタリング対象ではありません。

PowerShell コマンドレットを使用したオブジェクト ディスカバリのオーバーライド

PowerShell コマンドレットを使用して、オブジェクト ディスカバリの無効化またはオーバーライドが行えます。詳細については、「Retrieving, enabling, or disabling UCS Object Discoveries」を参照してください。

ルール

Cisco UCS コア ライブラリ管理パックでは、それぞれの UCS Central の障害についてルールが存在し、UCS テンプレート インスタンスが [Add Monitoring Wizard] から作成された場合はいつでも、ルールが継承されます。



(注) ルールは、Severity が Critical、Major、Minor、Warning、Type であり、FSM や Configuration ではない障害に含まれます。

障害の発生する可能性のある UCS コンポーネントによっては、UCS 障害に対して 1 つ以上のルールが存在する場合があります。

たとえば、F10000210 は次の UCS Central コンポーネントで発生します。

"org-[name]/ip-pool-[name]"

この例では、DN を後方から解析すると、Organization が検出されたコンポーネントとなります。このため、次のような 1 つのルールが使用できます。

Fault Rule : Organization.F10000210

さらに、エラー F10000195 についても考えます。これは次の UCS Central コンポーネントで発生します。

"extpol/reg/controllers/contro-[id]"

この例では、各 DN を後方から解析すると、UCS Central 管理パックによって検出されたコンポーネントがありません。このため、Cisco UCS Central のルートクラスをターゲットとする単一のルールが使用でき、次のエラー名となります。

Fault Rule : F10000195

ルールはイベントに基づきます。各ルールでは、Cisco UCS モニタリング サービスによって発生したイベントに基づいて、Operations Manager で複数のアラートを生成できます。



(注) 現時点で、Cisco UCS 管理パックは Cisco UCS Central からの情報性エラーやクリア エラーの Operations Manager での表示をサポートしていません。



(注) UCS Central FSM の障害は一時的な障害であるため、このバージョンの管理パックではサポートされません。管理パックでサポートされない FSM エラーの一覧については、次の URL を参照してください。
http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/ts/faults/reference/2-0/UCSFaultsErrorsRef_20/UCS_FSMs.h

ルールの事前設定

すべての管理パックがインポートされたら、Cisco UCS Central テンプレートが作成される前に、UI またはコマンドレットによってルールを設定（有効化/無効化）します。設定が完了すると、テンプレートのインポートが可能になり、後から追加されるすべてのテンプレートに設定が有効になります。テンプレートのインポート後にルールを設定を変更するには、ルールを再設定します。これは、既存のテンプレートおよび以降に追加されるすべてのテンプレートに対して自動的に適用されます。

PowerShell コマンドレットを使用したルールの有効化

PowerShell のコマンドレットを使用してルールを有効化できます。詳細については、「Retrieving, Enabling or Disabling UCS Fault Rules」を参照してください。

重大度のマッピング

このセクションでは、UCS Central の障害の重大度と Operations Manager コンソール内のアラートの重大度との間のマッピングについて説明します。

次の表に、Cisco UCS Central とルールとの間の重大度のマッピングを示します。

重大度	Cisco UCS (重大度)	ルール (アラートの重大度)
1	Critical、Major	Critical
2	Minor、Warning	警告



(注) デフォルトでは、すべてのルールが有効です。

管理パック内のルールの一覧表示

- ステップ 1 Operations Manager のメニューバーで、[Go] を選択し、[Authoring] を選択します。
- ステップ 2 ナビゲーション ペインで、[Management Pack Templates] を選択します。
- ステップ 3 [Cisco UCS Central] を選択します。
- ステップ 4 Cisco UCS Central インスタンスを右クリックし、[View Management Pack Objects] > [Rules] を選択します。

ルールのオーバーライド

-
- ステップ 1 Operations Manager のメニュー バーで、[Go] を選択し、[Authoring] を選択します。
 - ステップ 2 ナビゲーション ペインで、[Management Pack Templates] を選択します。
 - ステップ 3 [Cisco UCS Central] を選択します。
 - ステップ 4 Cisco UCS Central インスタンスを右クリックし、[View Management Pack Objects] > [Rules] を選択します。
 - ステップ 5 [Rules] ページで、オーバーライドするルールを選択します。
 - ステップ 6 ルールを右クリックして、[Overrides] > [Override the Rule] > [For all objects of class] をクリックします。
 - ステップ 7 [Override Properties] ページで、オーバーライドするパラメータを選択してから、オーバーライド値を変更します。
 - ステップ 8 [OK] をクリックして [Override] ページを閉じます。
 - ステップ 9 [Rules] ページを閉じます。
-

Cisco UCS Central から別のモニタリング サービスへの移行

複数の Operations Manager 管理サーバおよびエージェント管理されたコンピュータが存在する導入では、Cisco UCS モニタリング サービスを複数のコンピュータにインストールして、複数の Cisco UCS Central をモニタリングさせることができます。これは、複数の Cisco UCS Central の負荷を異なる管理サーバおよびエージェント管理されたコンピュータの間で共有するのに役立ちます。その過程で、Cisco UCS Central のモニタリングを、ある Cisco UCS モニタリング サービスから別のモニタリング サービスに割り当てる必要がある場合があります。

-
- ステップ 1 Operations Manager コンソールのメニュー バーから、[Go] タブをクリックします。
 - ステップ 2 ドロップダウン メニューで、[Authoring] を選択します。
 - ステップ 3 [Management Pack Templates] を選択します。
 - ステップ 4 [Cisco UCS Central] を選択します。
 - ステップ 5 Cisco UCS Central インスタンスを右クリックし、[Properties] をクリックします。
 - ステップ 6 ドロップダウン リストから、別のマシン タイプまたはサービス マシン、または両方を選択します。
 - ステップ 7 [OK] > [Apply] をクリックします。
-